

理念哲学研究部会

報告者：宇佐神正明

2014(平成 26)年度研究部会報告

研究部会メンバー：福留民夫、山本毅、武藤信夫、村山元理、遠藤梨栄、西藤輝、佐藤陽一、竹内予侑子、田中宏司、辻井清吾、長塚皓右、西村晋、新川信洋、青木崇、高橋太一、古山英二、望月雅和、緒賀正浩、佐藤 聡彦、伊東久美子、井上真由美、*宇佐神正明（*印は会長、年度末会員数 計 22 名）

研究部会設立年月； 1994（平成6）年3月

2014(平成 26)年度研究活動：

例会の会場として学会館の会議室（主に 308 室）を使用

4 月：「21 世紀〈経営の倫理〉」に向け、山本氏の「人類的思想の 21 世紀への歩み」と、すでに発表された佐藤陽三、辻井清吾の両氏の報告の文章化に着手。望月氏を大会への部会推薦とする。5 名参加

5 月：古山英二氏：経営倫理学という学問について、望月：大会発表に備え。5 名参加

6 月：土曜研究会の設定。宇佐神『21 世紀〈経営の倫理〉』の構想について。6 名参加

7 月：7 月研究交流例会に備え、岩井克人 『二十一世紀の資本主義論』につき佐藤・古山報告。

6 名参加

8 月：第一回土曜昼食会：佐藤「経済学は社会を救えるか—期待と失望—」。7 名参加

9 月：宇佐神「『21 世紀〈経営の倫理〉』における経営の概念等をめぐって」をもとに意見交換
5 名参加

10 月：前提となる経営の概念をめぐって（宇佐神）、ビル・トッテンの考えを紹介 5 名参加

11 月：井上真由美「草創期の神戸高等商業学校における商業教育」、山本、佐藤氏資料提供
7 名参加

12 月：望月「『21 世紀の経営倫理（仮）』の出版構想」提示、新川「コスモポリタンの概念を巡って」9 名参加

1 月（土曜研究会）； 宇佐神「21 世紀の経営倫理の課題」、佐藤陽一「トマ・ピケティ」
8 名参加

2 月：西村氏より中国事情について、村山氏博士論文の現況、山本氏（水野和夫）の報告あり。
10 名参加

3 月：佐藤氏「トマ・ピケティ『21 世紀の資本論』」、宇佐神「占領史観」等日本の自己理解について 10 名参加

研究成果

2014 年度の成果

1) 資本主義の終焉とその後について考察を深めた。水野和夫、宇沢弘文等を通して、資本主義にとってのフロンティアの消滅とそれ以降の人類社会の経営上の課題が見えてきた。

2) 部会として日本経営倫理学会発足 20 周年を記念し『21 世紀の〈経営の倫理〉』の出版に準備を始めた。

① 会員がそれぞれのテーマから 21 世紀の経営倫理の課題に迫る作業を始めた。

② 21 世紀における人類の課題とそこにおける日本の役割や地位について考察を深めた。

3) 宇宙 138 億年のビッグヒストリーの中に人類の今日と経営倫理の課題を見出す必要を確認した。和辻の『人間の学としての倫理学』の意義の再確認と日本的場の〈いのち〉の意義が再認識された。

2015 (平成 27) 年度研究活動予定

一、上記『21 世紀の〈経営の倫理〉』のための原稿作成が今年度の課題となる。

1) 完成度の高い研究成果の原稿化

各論のテーマを確定するに先立って、理念哲学部会の課題を踏まえたものとして、内容や論述等の完成度を各人の努力と、相互的検討を通して高めることが必要である。

二、経営倫理の主体と範囲の再確認

2) 経営倫理の視点から、地球という場の〈いのち〉への責任ある対応を、政府や企業がそれぞれの経営においてとるべき、経営責任と倫理的要請を明確にする必要がある。

三、倫理教育の課題

3) 宇宙の〈いのち〉への関連において、すべての人が倫理的責任を自覚できるホリスティックな視点に立つ教育と社会形成が 21 世紀の課題となろう。

(監査・) ガバナンス研究部会平成 25 (2013) 年度研究部会報告

研究部会 部会長 今井 祐

2014(平成 26)年度研究部会報告

(監査・) ガバナンス研究部会

研究部会メンバー：今井祐* 井上 泉 上原利夫 岡本展幸 大関 誠 岡田佳男 河口洋徳 嶋多明夫 高橋栄一 勝田和行 中嶋康雄 中村 眞 林 順一 日向浩幸 山本 正山 脇 徹 永井秀哉 浜辺陽一郎 (計 18 名)

*は部会長を表す。

研究部会設立年月：平成 7 年 (1995) 3 月

平成 26 年度研究活動報告

1. 部会ミッション：「経営倫理」の観点から、組織統治（「コーポレート・ガバナンス= ナンス = 企業統治」を含む）について監査の視点を含めて研究し、健全な組織・企業経営に資する

ことを使命とする。

2.部会基本テーマ:「健全なコーポレート・ガバナンス(組織・企業統治)を実現するための制度・運用と 運用と役員の在り方

3.個別テーマ

2016年4月:今井祐「川崎重工社長解任劇に見る、取締役決議の正当性とは」

2016年5月:井上泉「反社会勢力への対応に関する諸問題」

2016年6月:浜辺陽一郎「監査役第三者責任に関する判例動向(会429条関連)」

山脇徹「原子力発電と倫理に基づくガバナンス(組織統治)のあり方ー1(「電」編)

2016年7月:勝田 勝田和行「監査等委員会設置会社を活かしたガバナンスの仕組みづくり」

2016年9月:今井祐「当部会200回記念誌及び行事の件」

井上泉「JR北海道の病理」 林順一「ケイ報告書と日本へのインプリケーション」

2016年10月:山本正「不作為による損害の極小化の模索ー監査・監督機能の質向上のために」
大関誠「モニタリング・モデルに関する件」

2016年11月:今井祐「当部会200回記念講演用テーマ「企業統治改革元年」」

井上泉「ケーススタディ安愚楽牧場事件」

2016年12月:上原利夫「国立銀行条例と旧商法に学ぶ」

浜辺陽一郎「監査役会社に対する責任に関する判例動向(会423条関連)」

2017年1月:嶋多明夫「儒教及びやまと心と日本企業における基層的規範意識」

河口洋徳「分野別監査概念(会計、ITG、環境、情報セキュリティ等)」

2017年2月:日向浩幸「病院組織の内部統制に関する研究」

中嶋康雄「社外取締役が機能するための環境と条件」

2017年3月: 山脇徹「原子力発電と政府規制組織のあり方」

全員「平成27年度基本テーマ案及び個別テーマ案審議」

研究成果:1.監査・ガバナンス研究部会第200回記念誌を、OB+現役の累々たる研究成果を含め、纏め(井上泉)100部配付。今井祐が200回記念講演「企業統治改革元年」を発表した。

2.6月の研究発表大会において、今井祐、井上泉、勝田和行、日向浩幸の4氏が発表した。

3.今井祐が『経営者支配とは何か』(コーポレート・ガバナンス・コードとは)の著書を著す。

4.林順一が「経産省」の日本版ケイ・レビュー「伊藤レポート」の有識者メンバーに選ばれ貢献。

5.浜辺陽一郎客員部会員による「監査役会社に対する責任に関する判例動向」等の講和は有益で参考になった。

6.部会ミッション等の研究が17件あり、経営理念・コンプライアンス等で有益な研究があった。

平成27年度研究活動予定

監査・ガバナンス研究部会 「平成27年度部会活動の在り方」 H27-4-10

研究部会 部会長 今井 祐

1. 監査・ガバナンス研究部会ミッション（使命）： H25-4-19 改定。

「経営倫理」の観点から、組織統治（「コーポレート・ガバナンス=企業統治」を含む）について監査の視点を含めて研究し、健全な組織・企業経営に資することを使命とする。

2. 平成27年度研究発表大会統一論題：H26年10月理事会決定「アジアの経営倫理—文化の多様性と経営倫理の普遍化可能性」、（於；拓殖大学文京キャンパス：茗荷谷、6月20~21日）

3. 平成27年度監査・ガバナンス研究部会の基本テーマ：H27-4-10 改定

「健全な組織統治（「コーポレート・ガバナンス=企業統治」を含む）を実現するための制度・運用と役員等のあり方」

4. 平成27年度監査・ガバナンス研究部会の個別テーマ

年月日個別定例テーマ 発表者 備考

H27/

4・10 H27年度部会ミッション、基本テーマ、個別テーマの最終決定等

金融庁によるコーポレートガバナンス・コード最終案の問題点等全員

今井 No.209 310号室

5・15 女性CEOと女性社外取締役とで期待される資質が異なる～三菱電機の野中ともよ氏の蹉跌～

安愚楽牧場問題（その2）－投資詐欺にどう対処するか 今井

井上 No.210

6・19 取締役に関する判例動向（仮）

お雇い外国人エスラーの思想と観察力 浜辺

上原 No.211,6/20,21 総会・発表大会

7・17 J-REIT（上場会社型不動産投資信託）におけるコーポレート・ガバナンスの現状と課題
上場会社の監査役の今日的課題（試論）～コーポレートガバナンス・コードを受けて～ 岡本 山

本 No.212

8・ 休会 休会 休会

9・18 原子力発電と政府規制組織のあり方（その2）

英国のコーポレートガバナンスの特徴と日本への示唆 山脇 林 No.213

10・16 英国の投資情報開示（アニュアルレポート）の事例分析

現代企業人の基層的規範意識と日本古来の伝統的倫理思想（その1） 林 嶋多 No.214

11・20 食の安全とメニュー偽装

倫理監査について

分野別監査概念と倫理監査について 井上 大関 河口 No.215

12・18 取締役に関する判例動向（仮）

ブランド力の攻めと守り 浜辺 上原 No.216

H28/

1・15 日本的経営の変容と人事・労務ガバナンス～サービス業を中心に～

医の倫理と病院診療の質向上 勝田 日向 No.217

2・19 金融庁が求めるコンプライアンス態勢構築に対する実務的考察～投資運用業者を事例として

真の ROE 経営とは 岡本 中嶋 No.218

3・11 日本型ハイブリッド・ガバナンス体制の現状とその機能態勢を巡って

平成 2 8 年度部会ミッション・基本テーマ案及び個別テーマ案等検討 永井 全員 No.219

実証研究部会

平成 26 年度研究部会報告

（実証調査研究部会）

研究部会メンバー：中野 千秋、井上 泉、梅津 光弘、大川 幸弘、小泉 耕一郎、高 巖、長塚 皓右、

野村 千佳子、*福永 晶彦、山田 敏之、横田理宇（*印は部会長 計 11 名）

研究部会設立年月：平成 7 年（1995 年）9 月

26 年度研究活動報告

作業部会 3 名（中野、山田、福永・敬称略）を中心に行った倫理風土の定量的測定に関する調査の研究成果を日本経営倫理学会にて

発表し、日本経営倫理学会誌に投稿、掲載された。同論文の題名は「組織の倫理風土の定量的測定」である。

同調査は山田先生、中野先生のご尽力により麗澤大学企業倫理研究センターの研究プロジェクトとして行った。

研究成果：Victor and Cullen による企業組織の倫理的風土の測定指標が我が国企業でに対し適応可能か検討する調査研究を行い、

研究成果を日本経営倫理学会、同学会学会誌にて発表した。

平成 27 年度活動予定：今回の研究において不十分な点の研究を進めると同時に、新たな研究課題について検討を行う。

（以上、文責・福永晶彦）

CSR 研究部会

平成 26 (2014) 年度研究部会報告

CSR 研究部会

研究部会 メンバー:水尾順一 (*), 蟻生俊夫、田中宏司、矢野友三郎、本橋潤子、昆 政彦、阿部博人、大泉英隆、水上武彦 小池裕子、福田英男、馬越恵美子、山脇 徹、宮川 聡、新城修、福本ともみ、清水正道、井上昌美 齊藤全彦、福田 隆、星野邦夫、岩根裕一、杉田純一、齋藤善成、萩原道雄、桜木君枝、高野一彦、明石雅史 池田耕一、横山恵子、山中 裕、山田雅穂、桑山三恵子、吉田哲朗、シュレスタ・ブパール・マン、武谷 香 西本宜義、黒澤正一、熊谷謙一、村松邦子、加藤美香保、佐伯隆博、村井 淳、齊藤智恵美、長谷川直哉 平塚 直、高浦康有、田中信弘、中嶋康雄、西藤 輝、斎藤智文、古谷由紀子、枝川 陽子、引口真博 笹谷秀光、菅原和巳、河口洋徳、井坂慶子、荻野博司、平野 琢、藤澤 文、箕輪睦夫、長谷川忠、松田千恵子 北村和敏、西井寿里、文 載皓、小方信幸、殿崎正芳、川村雅彦、国谷史朗、林 依利子、三嶋浩太"

(*印は会長 計 73 名)

研究部会 設立年月 ; 2004 (平成 16) 年 5 月

平成 26 年度 研究活動 報告 毎月第 2 火曜日に電力中央研究所会議室 (大手町) にて部会を開催するとともに、以下の活動を中心に行った。

1. 部会メンバーによる事例・研究報告

「グローバル CSR を機軸とした CSR、BOP ビジネスに関する考察～クライストチャーチ・東日本の大震災からの復興支援から、ガーナ、メキシコにおける CSV 活動まで」(水尾順一)

「CSR の理解・進展に向けて－ステークホルダーからの問題提起－」(古谷由紀子)

「CSR の概念の歴史的・理論的背景」(吉田哲朗)

「社会生態学者 P.F.ドラッカーと ISO26000」(北村和敏)

「実務者アンケートに見る企業のグローバル展開」(松田千恵子)

「日本の大学生の倫理意識調査」(文 載皓)

「ISO26000 の動向について」(熊谷謙一)

「日本企業のインターナル・コミュニケーション現状と課題について」(清水正道)

「『働きがいのある会社』を実現するためのツーウェイコミュニケーション」(斎藤智文)

「経営理念に基づく財務戦略の方向性について－IFRS (国際財務報告基準) を採用している企業を中心に」(朝川俊誠)

2. 部会メンバー以外による報告

「企業の社会的責任」に関する東京商工会議所の取組みについて」(馬目 学・徳永達彦 東京商工会議所)

3. 渋沢栄一 CSR 研修の実施 (3月13日)

・ 渋沢記念館の見学と、記念館学芸員による講義「渋沢栄一の世界：論語とそろばん、道徳経済合一説など」

・ 渋沢栄一の生地（中の家）、富岡製糸場の初代場長の尾高惇忠邸の見学を通じて日本の近代史や CSR のルーツを学ぶ

4. プロジェクト研究「戦略的 CSR と CSV の関連性」の推進

学会論文「CSR とコーポレート・ガバナンスの関連性の検証と今後の方向性」をとりまとめ

5. 日本経営倫理学会全国大会等における研究発表

6. 第7回経営倫理シンポジウムなど学会活動への協力

7. その他（メンバー間の情報交換、BERC との研究交流、講演・雑誌掲載による CSR イニシアチブの普及など）

研究成果：1. 単行本『三方よしに学ぶ 人に好かれる会社』（サンライズ出版）を刊行

2. 日本経営倫理学会誌第22号への投稿（井上昌美、蟻生俊夫、古谷由紀子、山田雅穂、小池裕子、笹谷秀光）

平成27年度 研究活動 予定：平成26年度の活動成果を踏まえ、平成27年度も毎月第2火曜日に電力中央研究所会議室（大手町）

にて部会を開催し、以下の内容を中心に活動する予定。

1. 各メンバーによる事例・研究報告

2. ISO26000 および統合報告書への対応と評価

3. 学会での研究発表

4. CSR 現場研修の実施

5. その他

企業行動研究部会

研究部会 メンバー：朝倉久男、荒川祥子、安藤顕、井上真由美、岩倉秀雄、上原利夫、遠藤淳一、遠藤梨栄、大泉英隆、岡田佳男、*勝田和行、加藤隆一、河口洋徳、北川則道、木下博生、熊本一夫、栗栖徳雄、桑山千恵子、剣持隆、小池裕子、西藤輝、斉藤千恵美、酒井恒雄、櫻井功男、佐久間健、佐藤陽一、柴柳英二、鈴木啓允、瀬名敏夫、潜道文子、高橋太一、武谷香、田村尚子、出口純輔、中島悟史、年那須一貴、西井寿里、西村秀美、根城泰、野瀬哲郎、野田賢介、長谷川忠、比賀江克之、樋口晴彦、肥後文雄、菱山隆二、平塚直、古谷由紀子、古山英二、増岡泰彦、増澤洋一、増淵隆史、松尾實、松本邦明、丸山千賀子、水野雄史、峰内謙一、宮川準、山口謙吉、山中裕、山本洋、横館久宜、吉村典久（*印会長 計63名）

研究部会 設立年月：1995(平成 7)年 3 月

2014(平成 26)年度研究活動報告

4 月(第 212 回) …発表「イスラム考」(北川)

5 月…発表「里山資本主義」(佐藤)

発表「尼崎事故・セウォル号事件にみる第三者委員会の問題点」(勝田)

6 月…発表「資本主義から市民主義へ」(佐藤)

発表「21 世紀『総合商社』研究」(西藤)

7 月…意見交換「本年度研究発表大会のレビュー」

発表「大飯原発再稼働差止めを認めた福井地裁判決と日本原子力学会」(峰内)

発表「利他性を生み出す脳内メカニズム」 「Integrity of Sports シンポジウム」(松尾)

8 月…発表「租税回避をどう考えるか」(菱山)

9 月…発表「GFSI の活動と食の安全」「農業の産業化」(佐藤)

発表「ゼンショーの『すき家』問題」(菱山)

10 月…発表「住友商事の巨額損失」(峰内)

発表「ゼンショー・『すき家』のその後の問題」(菱山)

11 月…発表「ガバナンスのあり方・短期主義企業統治の問題点」(峰内)

発表「ガバナンスと共感」「社外取締役と外食産業」(北川)

12 月…発表「アクティビストファンドと日本の経営」(井上)

発表「企業統治体制と執行役員・ガバナンスと分離」(北川)

2015(平成 27)年

1 月…発表「日本の伝統的な経営と CSR」(潜道)

2 月…発表「社外取締役について」(佐藤)

発表「日本の企業経営に対する批判」(峰内)

3 月…発表「『遺言 日本未来へ』について」(佐藤)

発表「ノバルティスファーマの業務停止について」(出口)

当研究部会は経営経験の多いメンバーが大半なので実社会における事例を倫理的立場と経営的観点から検討できるのが特色である。年度後半は日本的な経営手法がグローバル時代にどのように適用できるかを毎月の部会で検討した。

月例会部会での検討テーマを 第 1 テーマ(メイン) と第 2 テーマ(フォローアップの) の二本立てとして、発表者の研究発表と出席者の意見交換を続けている。毎回多数の部会員が出席し時には時間オーバーになるほど活発に意見を交わしている。部会メンバーによる社会における女性の地位向上の為に プロジェクトチームは 6 月に「日本企業改革の決め手女性取締役を創るための行動的提言」を印刷物として発表した。また当部会の環境倫理分科会メンバーは 6 年にわたる

研究の成果を「人類はこの危機をいかに克服するか」というタイトルで7月に三和書籍より出版した。尚、月例部会は12回、日曜ランチ懇談会は1回(6月1日)開催された。

平成27年度 研究活動 予定:本年度は第1テーマの発表者を中期的に設定しそれを予告的に発表してなるべく多数の人がそのテーマについての議論に参加できるようにすると共に、言い放しの議論にならないようにテーマごとに発表内容と意見交換・フォローアップの概略を部会の記録として残していくことにしたい。検討テーマとしては企業の不祥事を始め経営倫理の観点から題材となるような事例を積極的に取り上げ、株主資本主義がグローバルな経営理念として適切であるか、日本的経営がグローバルに通用するようになるためにはどうすべきか等を検討して行きたい。

経営倫理教育研究部会

2014(平成26)年度研究部会報告

(経営倫理教育研究部会)

研究部会 メンバー:梅津光弘 中谷常二 高浦康有 勝西良典 葉山彩蘭 中山三照 横山恵子 宮重徹也 古山英二 高田一樹 小山巖也 深津千恵子 水村典弘 折戸 川野祐二 潜道文子 村山元理 嶋根政充 武谷香 福川恭子 本田康二郎 鈴木由紀子 Joaquin, Ferrer 岡部幸徳 高野一彦 (*印は会長 計25名)

研究部会 設立年月:2004(平成16)年

26年度 研究活動 報告

本年度も昨年同様に10月に第4回CSR構想インゼミを行い、3月に研究発表会を実施した。これまで3回開催されてきた復興構想インゼミは、問題意識を広くしてCSR構想インゼミと名称を変更し、実施された。また今回は開催校である関西大学のご厚意で10月3~4日の一泊二日の開催となった。会場となった関西大学高槻ミュージックキャンパスには東北大学(2チーム)、関西大学(2チーム)、慶應義塾大学、東北学院大学、富士常葉大学、拓殖大学から計8チームが参加して、それぞれの研究発表を行った。今年も高橋会長、剣持理事が審査員として参加された。開催校の高野理事には大変お世話になった。なおこのインゼミの内容は国連PRMEのホームページにも掲載されている。

3月24日には岡部会員の労で金沢工業大学を会場に研究会を開催した。潜道会員、鈴木会員、また宮重会員の指導学生お二人による研究発表が行われ、活発な議論が行われた。

研究成果

2013年度復興構想インゼミの成果物が14年8月に刊行された。本年度も同様の成果物を刊行予定である。また、これまで4回のインゼミの様子や発表題目などは国連PRMEのホームページにも日英両語で掲載されている。

27年度活動予定：本年度も第5回 CSR 構想インゼミを開催予定である。今年は10月9～10日、東京の八王子大学セミナーハウスを会場に実施予定である。

次年度は諸般の事情から、部会長を岡部幸徳先生に、また CSR 構想インゼミの担当を高田一樹先生に引き継いで実施していく予定である。

関西地区研究部会

研究部会 メンバー：大谷秀幸 加藤健二 山崎純一 吉田博 林 満男 島田 恒 西岡慶則 谷口 照三 *吉川吉衛 西岡健夫 笠岡一之 西井寿里 高田一樹 永松博志 飛田治則 オランゲレル 足立 克之 吉川英一郎 *剣持 浩 持松志保 劉 宏成 倉田 実 永松博史 狩俣正雄 王 艶梅 西五辻香奈 横山恵子 他、(敬称：略)

(*印は部会長&幹事、参加数約 25 名)

研究部会 設立年月：1995年10月

2014(平成26)年度 研究活動 報告：

第1回 オランゲレル氏(追手門学院大学 会員)

日時 2014年4月19日(土曜)

テーマ 中国の環境法政策とガバナンスに関する一考察

「-西部大開発政策における生態移民政策の検討を中心に-」

場所 追手門学院 大阪梅田サテライト

第2回 横山恵子氏(関西大学・会員)

日時 2014年7月26日(土曜)

テーマ 「持続可能な社会に向けてのコラボレーション・フロンティア～手段から目的に」

場所 川崎医療福祉大学「ESD (Education for Sustainable Development) 世界大会

第3回 高田 一樹氏(南山大学大学院ビジネス研究科 :会員)

日時 2014年12月6日(土曜)

テーマ 「能動的な経営倫理教育の可能性——

ケースメソッドとプロジェクト型の授業を手がかりとして」

場所 追手門学院 大阪梅田サテライト

第4回 山崎 純一氏(株式会社 山崎総合研究所 代表取締役:会員)

日時 2015年2月21日(土曜)

テーマ 「個人と組織の意識の進化 -良心を中心に-」

場所 追手門学院 大阪梅田サテライト

本年度も、4回実施した。各部門の専門家としての発表であり、活発に議論がなされた。終了後の飲み会では更に詳細な議論となり、確実な前進となっている。

研究成果：2014 年度も移動研究会を実施した。場所は倉敷の川崎医療福祉大学。
ESD 世界大会との連動であり、会員の横山先生(関西大学) が基調講演を実施し、
12 名の関西地区部会員も参加した。

倉敷にある大原美術館を見学し、ESD 世界大会に参加し、夜は温泉付きのホテル
で海鮮料理を堪能した次第。

2015(平成 27)年度

第 1 回 島田 恒氏 (会員)

2015 年度 (予定) テーマ「働き盛りの NPO—人間力と CSR」

研究活動予定 日時 2015 年 4 月 18 日(土曜)

第 2 回 西岡健夫氏(会員) 予定

第 3 回 谷口照三氏(会員) 予定

第 4 回 未定

中部地区研究部会

研究部会 メンバー：青木崇 伊藤敦 荒尾一彦 水谷内徹也 神谷泰範 蕎麦谷茂 永木義博
岡部幸徳 浜田吉司 濱村由佳 藤木善夫 小野琢 *堀田友三郎 (*印は会長 計 13 名)

研究部会 設立年月：2000 年 10 月 23 日

2014(平成 26)年度 研究活動 報告：2014 年度も例年通り、研究会を 2015 年 1 月 24
日に日本消費者教育学会中部支部と
合同で開催した。

多数の参加を得て、懇親交流会も 20 名を超える参加で盛況であった。

日時 2015 年 1 月 24 日(土) 13:30~17:00

場所 椋山女学園大学現代マネジメント学部棟 307・308 室

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17-3

内容

13:30-14:10 報告者：奥田 真之氏 (十六総合研究所)

「内外の金融経済教育の動向と新しい金融経済教育」

司会：小田切純子 (滋賀大学)

14:15-14:55 報告者：大藪 千穂氏 (岐阜大学)

『アーミッシュの消費者教育 (2) 保健体育の教科書分析

司会：吉本 敏子 (三重大学)

15:00-15:40 報告者：東 珠実氏 (椋山女学園大学)

「内外の金融経済教育の動向と新しい金融経済教育」行政のコーディネートによる消費者市民教

育展開の可能性

司会：大藪 千穂氏（岐阜大学）

16：00-17:00 講演者：佐藤悌二郎氏（PHP 研究所専務取締役）

「松下理念と顧客満足」

司会：堀田 友三郎氏（東海学園大学）

研究成果；中部地区で経営倫理研究に取り組む方も徐々に増加してきている。今年度は PHP 研究所で永年にわたり松下理念を

研究されてきた専務取締役の佐藤悌二郎氏を招き、講演していただいた。例年通り、消費者教育学会と共催で、参加した会員も

研究報告にも活発な質問をなされた。当日は私が顧問を務める消費者教育学会会員も合わせて 30 数名の参加者を得て盛大、

活発に議論を行った。研究会終了後の懇親交流会には PHP 研究所の佐藤氏にもご参加いただき、講演内容について議論を展開した。

参加者各自が経営倫理関係の研究を進化させることを確認した。

平成 27 年度 研究活動 予定： 2015 年度も例年通り年 1 回の地区研究大会を開催したい。

中部地区は範囲が広く、北陸の方は参加しづらいのが現状です。愛知県、岐阜県、三重県の東海地区に限定される。BERC 参加企業のみなさんとも共同できるように研究会の見直しが必要です。次期に地区研究会長を務めていただく方にご検討願うことにしたい。

国際委員会報告

平成 26（2014）年度 JABES 国際委員会活動報告

平成 26 年度 JABES 国際委員会の活動は例年参加している SBE(アメリカ経営倫理学会大会)への参加と、来日された経営倫理学関係学者による講演会の開催であった。

SBE 年次大会は 8 月 1 日から 4 日まで、フィラデルフィア Radison Blue Warwick Hotel を会場に開催された。初日の国際学者歓迎会には、雪印乳業の日和佐信子社外取締役が参加された。日本からの参加者は梅津副会長、出見世理事、小山理事、谷口会員であり、そのほかにラトガース大学留学中の重本会員も参加された。

慣例に従い、梅津副会長がブライアン・ヒューステッド会長はじめ日本にも馴染みの深い役員や前役員に記念品を贈呈した。また日和佐取締役主催の昼食会も開催され、日本からの訪問者とパトリア・ワーヘイン先生、ダリル・ケイン先生を囲んで情報交換の時をもった。

今回もヨーロッパからの参加者が多く、また若手の研究者、大学院生の参加者も多く企業倫理の研究が欧米では地理的にも年齢層的にも拡大・深化していることを痛感させられた。会期のはじめには主に博士課程在籍中の院生とワーヘイン先生をはじめとするシニアレベルの先生方の

特別セッションももたれており、アメリカでは学会が次世代研究者を大学の壁を越えて育てようとしている姿勢に感銘を受けた。

2014年10月20日にはノートルダム大学教授のオリバー・ウィリアムス先生が来日され、慶應義塾大学で「THE CHANGING ROLE OF BUSINESS IN SOCIETY: DOING WELL AND DOING GOOD」と題して講演会が開催された。急な来日であったため、人数を18名に制限せざるを得なかったのが残念であったが、海外の留学生や大学院生を中心に20名ほどが参集した。

2014年12月12日にはハーバード・ビジネス・スクールのNien-he Hsieh先生（謝念和先生）が来日され「The Purpose and Responsibilities of the Firm」と題して講演された。これまた、来日の1週間前に連絡がきたために、十分な準備ができなかったが、会場の慶應義塾大学三田キャンパスにはおよそ60名の参加者が集い、現在同名の著書を執筆中の先生から最新の企業論を伺うことができた。ここでは大学院生を中心として活発な討論が行われ、謝先生からも大変に刺激的な討論であり有益であったとのご感想をいただいた。

このほかにも11月には第5回 PRME アジアフォーラムがマレーシアのクアラルンプールで開催され、梅津が出席したほか他の会員の国際交流は把握できないほど活発に行われるようになってきた。国際委員会は故水谷雅一会長の諮問機関として発足し、国際交流が少なかった時代にふさわしい交流の相手を吟味する目的で設立された。昨今の現状をみると、国際交流はすでに相当程度行われており、また今後ますます進展するであろう国際交流の現実を考えると、国際交流担当理事を中心に理事会での審議に発展進化させる時が来ているように思われる。